

小学生向け熱中症予防ワークショップ用資材の使い方について

小学生を対象とした熱中症予防ワークショップで、実際に WBGT 計を用いて暑さ指数を測定する実験で、日射がある運動場に日傘を設置して日射の影響を比較させるのだが、日傘のかわりに、以下のような紙でできた帽子を利用することで、ワークショップの印象を強く意識づけさせることができたので、参考まで情報提供する。

帽子を使って遊ぶことが目的ではないが、教師・学生のみならず、取材に来た報道機関に対しても見た目のインパクトを与えることで、次の授業の希望や取材・報道を通じた情報発信に繋がり、啓発効果を高めることができる。

配布可能な PDF ファイルは3種類

編み笠6枚(あご紐なし)、編み笠4枚(あご紐あり)、野球帽 3 色×2 組
ダウンロードして、ペーパークラフト用厚紙もしくはケント紙にカラー印刷する。

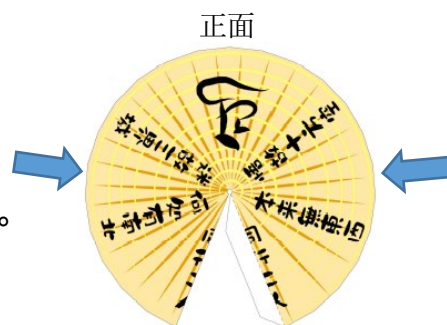
※ サンワサプライ インクジェットプリンタ用紙 厚手 A4 30 シート(500 円前後)

編み笠

はさみで切って、「同行二人」の文字がピッタリ重なるように張り合わせるだけ。

あご紐は無くてもよいが、帽子と黒球の間に隙間を作りたい場合は、あご紐を矢印の部分に接続し、あご紐に強力両面テープをつけて黒球に貼り付けるとよい。

あご紐なしの場合は、編み笠の裏側に両面テープを貼って、黒球に風で飛ばない程度に軽く貼り付ける。

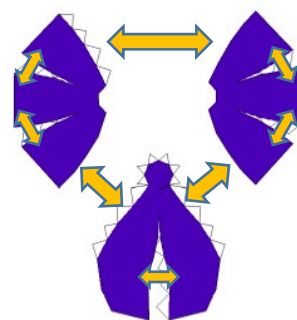


野球帽

同様に型紙を切り取って、橙色の矢印のとおり7か所を貼りあわせる(ちょっと難しいので、要練習)。

WBGT 計の黒球はメーカーによって大きさがまちまちのため、タニタ製よりちょっと大きく作っている。そのままではズレ落ちるので、これも帽子の裏側に両面テープを貼って、黒球に軽く固定する。

※ A&D 製は黒球が大きく、野球帽が入らないため編み笠のみの選択となる。



日射量が暑さ指数に占める割合は 2 割程度なので、実際のところ帽子をかぶせても劇的な違いは見られないが、違いは認められる。帽子の形状はより大きな影を作ることができる編み笠が優れている。

香川県に連絡していただければ、モデリングデータで提供することも可能。

担当(本田)E-mail: ka0551@pref.kagawa.lg.jp

3D モデル:メタセコイア(フリーソフト), 展開図(テクスチャ合成):ペパクラデザイナー, テクスチャ用ラスタデータ:ファイアアルパカ(フリーソフト)

